

今日のトピック インドの経済・市場動向 (2018年12月前半) 11月の株式市場は堅調、政策金利は据え置き

【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	12月5日	1週間	1カ月	6カ月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.61	▲0.2	3.8	▲1.8	▲8.1
ルピー/米ドル (ルピー)	70.47	▲0.2	▲3.6	4.9	9.4
金利					
政策金利 (%)	6.50	0.00	0.00	0.50	0.50
10年国債利回り (%)	7.45	▲0.2	▲0.4	▲0.4	0.4
株式指数					
SENSEX (ポイント)	35,884.41	0.5	2.7	2.8	9.4

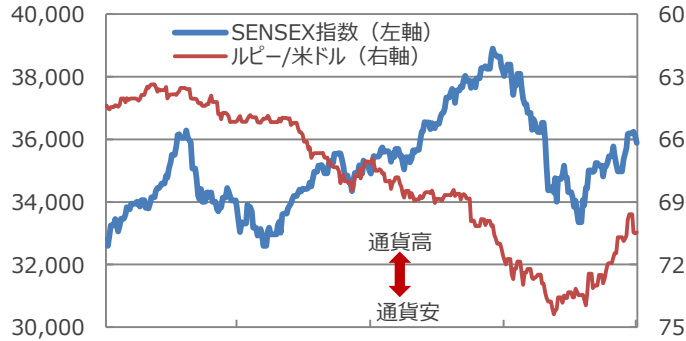
(注) データは2018年12月5日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント)

【実質GDP成長率】

(ルピー/米ドル)



(注1) データは2017年12月5日～2018年12月5日。

(注2) ルピー/米ドルは逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント1 11月の株式市場は堅調

原油価格下落やルピー上昇を好感

- 11月のインド株式市場は、原油価格の下落やインドルピーの上昇、米中貿易摩擦の緩和期待などを背景に、投資家のリスク選好姿勢が強まり、堅調な展開となりました。主要株式指数のSENSEXは、月間で+5.1%の上昇となりました。

ポイント2 RBIは政策金利を据え置き

実質GDPは7.1%成長

- インド準備銀行 (RBI) は12月5日、金融政策決定会合で政策金利を6.50%で据え置きました。金融政策スタンスについては、引き締め姿勢が維持されました。足元のインフレ率が物価目標の中心値の+4%を下回っていることや原油安から、RBIは2018年10月～19年3月のインフレ見通しを下方修正しました。
- 2018年7-9月期の実質GDP成長率は前年同期比+7.1%と、個人消費の伸び縮小や輸入拡大により、4-6月期の同+8.2%から減速しました。ただ、政府消費や設備投資の加速を主因に内需寄与度が+9.6%ポイントに高まるなど、総じて景気は堅調といえます。

今後の展開 原油安はインド株の追い風に

- インド経済は、インフレ率が鈍化していることから、個人消費の伸び縮小に歯止めがかかり、7%台の成長を維持するとみられます。RBIは、前回の会合で先行きのインフレ加速を警戒して金融政策スタンスを中立から引き締めに変更しましたが、足元のインフレ率の落ち着きから当面政策金利を据え置くとみられます。
- インフレ、経常収支、通貨安定にプラスに働く原油安は、今後も株式市場の追い風になりそうです。景気が堅調な一方、インフレ見通しが好転しており、株式市場を取り巻く環境は改善方向にあると考えられます。

ここも 2018年11月21日 インドの経済・市場動向 (2018年11月後半)

チェック! 2018年11月 9日 日印、共同で『AI』開発に乗り出す

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。